



● 報恩講報告 ●

● 春季彼岸会法要 三月二十日(土)午後一時三十分 厳修 ●

● 詳細は3頁 ●

● 詳細は2頁 ●



秋季彼岸会法要



御文拝読



修正会

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781代
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 住職 池田孝三郎

春季彼岸会法要 兼 前任職三回忌法要

昨年(二〇二〇年)は新型コロナウイルス感染症拡大において全世界で脅威に襲われました。今もまだ終息の兆しはなく、安心した日常生活は取り戻せていません。

コロナによって、当たり前と思っていたことが、当たり前ではないことが様々な場面で問われ、改善工夫し、変化に対応することが求められ、意識と体が一致して行動することが、最初はギクシャクしていましたが、少しずつ順応できるようになってきたことです。そもそも仏教で「諸行無常」と一番最

春季彼岸会法要 兼 前任職三回忌法要

- ・3月20日(土)春分の日
- ・午後1時30分～3時まで(1時受付)
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。
預骨されている方は率先してお参り下さい。
ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月17日(水)～23日(火)の期間
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

初に教えて頂きながら、いつの間にか、当たり前の日常となり、明日もあり、明後日もありと認識しています。本当は、明日は無い、否、この瞬間は二度と無い瞬間であったということに常に向き合うことが大切だと改めて知らされると同時に、有限な世界を生きながら、無限なる世界を仰いで生きていることが、即ち、悔いのない人生を生きていることになると思わされることです。空しくない人生を全うしていく歩みが仏の大きな願いだとさらに感じております。

お彼岸と前任職の三回忌を兼ねて勤修します。
亡き人を偲びつつ二緒にお念仏しましょう。
住職(釋徹照)



勤行



住職法話

真の依り処

この世で一番辛く悲しい事は愛別離苦です。身に引受けることが出来ずただ後悔ばかり、自分を攻め何んで私が生きているのか申し訳なく深い慚愧に堪えません。慚愧は深くずうと痛み続き私が死ぬ迄続くことでしょう。迷いの真つ暗闇に居る我に阿弥陀様は何も手助等なく文句ばかり言っている私にあきれておられました。辛い悲しい一層死んだ方がいわと世間に向って開き直ってしまいましたのですもの。こんな私にある時明るい光に遇わせて下さり縛られていました身が軽くなり不思議な全く異質な世界が広がっていました。阿弥陀様はこの我が本当の我であると教えて下さり機の深信に覚めさせて頂きました。二人の息子は私の体のすみずみにいのちとなつていきいていつでもどこでも遇え嬉しくいのちの繋りの尊さを重く深く受けとめさせて頂いています。

南無阿弥陀佛。
岡田ノリ子

鈴の音

世の中安穩なれ、
仏法弘まれ
親鸞聖人
(御消息集より)

報恩講報告

昨年、十月十一日(日)、報恩講兼光
照寺創立三十周年法要を関係各位の
ご協力のもと多数のご参加を頂き、無
事に勤修できましたことをここにご報
告申し上げます。

振り返りますと、長いようであつと
いう間の三十年を経過しました。これ
までの歩みを年表にしてご縁の皆様
に配布しました。多くの先生、法友にお
育てを頂いたことが私にとって、お寺
にとつても大きな宝となっていること
に改めて実感致しました。

ご講師の本明義樹先生(真宗大谷派



本明先生法話



住職挨拶

聖教編纂室主任編纂研究員・京都教区
専光寺住職からは、「濁世に立つ」とい
う講座で、「実は私のことが一番分かっ
ていなかった」という感動の言葉が濁世
ということなのです。そこに立つとい
うことが実は阿弥陀様の光を受けて
本当の御法の世の中を一步一步その教
えの言葉に促されて歩んでいくことが
出来るという、そういう一つの願いが
この濁世に立つということに込められ
ていることです。」とお話を頂きました。
自分のことそして自分を支えている
多くの目に見えない支えというもの
をないがしろにしている自分に気づく
ことの大切さを教えて頂きました。
大変な状況の中をいきいきと命ある

限り大事に一日、一生歩いていこうと
いうこと、又、日々力強く歩んで行こ
うという思いを皆さんと共有した節目
の報恩講を勤めることができました。
これからも末永く宜しくお願い申し
上げます。

住職(釋徹照)



おち 歎異抄

羅漢：「親鸞は父母の孝養のためと
て、一返にても念仏もうしたること、
いまだそうらわず。」第5章

「一切の有情は、みなもって世々
生々の父母兄妹なり。」
川越喜多院の五百羅漢



お知らせ

— 寺務所より —

新型コロナウイルスに関して

● 新型コロナウイルス感染予防・拡大防止に伴い、予定されている行事は状況により、中止又は変更がありますのでご承知下さい。随時HPをご確認頂くかお問い合わせ下さい。個別のご法事、お葬儀はお参りさせて頂きます。

● 法要のご案内

● 春季彼岸会法要兼前住職三回忌法要
三月二十日(土)、午後二時三十分より厳修

● 光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧ください。総会は六月十三日。

● 聞法会のお知らせ

● 親鸞聖人のみ教えに聞く会はしばらく休会します。

講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授)

● 大経の会

三月二十五日、四月二十九日、五月三十日、午前十時〜午後三時。講師は佐々木師と住職の担当月別。「正信偈讃仰」(七)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

● 我聞の会

三月二日、四月十六日、五月二十一日、午後二時〜四時。「歎異抄」を学んでいます。講師は住職。

● 微風学舎

三月八日、四月二十二日、五月二十七日、午後二時〜四時。講師は住職。「高僧和讃講義(一)」(延塚知道著)を学んでいます。

● サークル

● 聲明サークル、三月二十四日、五月十日。午後二時〜四時。講師は住職。
● 絵解きサークル、四月七日、六月九日。

● 子供会

四月五日(月)花まつりです。

● お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。マスク着用と換気を宜しくお願いします。
住所 電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳

吉澤 光昭

蛭にも意志のありしか口開けず
二ヶ月も行事の多き大和かな

陽春や只一輛の都電行く
病名を指折り数う余寒かな

我が家のみ声高らかに節分会

山田 恒

花のない記憶に知覧の青い空
百越えの杖は小石にたじろかず

短歌(詩)

佐々木 玄吾

閉じこもりを解消せんとて
富士を見に

鯉を見に出る
秋晴れの朝

朝つとめかかさじと嗜む

道宗も

妻と一人
御文を読みしか

オンライン

ロックダウンにディスタンス
新しき時代

心配もろもろ

「許せぬ」と矛盾に怒る
電話あり

残されたいのち幾ばくぞや

パソコンもガラケータイつかえずも
念仏のみで通じ合う

釋尼 邦照

彌陀光に 愛温戴き 頼の粒
導き賜う 唯説信心

彼方より 遍く奏で 大悲の聲
嗚呼有難き 我今心えん

彼方より 絶えず照らせり 温慈光
嗚呼有難き 南無阿彌陀佛

久松 真弓

漢詩

篠原 潤子

漁師

早朝帰港雪降中
祖父祖母捌鳥賊
海鳥飛絶人影少
頑固寡黙益荒男



猿ヶ京秋景
山田 邦興 画

梵鐘

コロナウイルス感染で始まり終息がないまま一年が終わる。非日常が日常となり、振り回される私と予期せぬ事態を冷えた目で見ている。この一年で違和感なくマスクをして、人との距離を自然に保つよう学習した。聞法会の中止、WEB参加もあった。記念すべき光照寺創立三十周年記念報恩講もその中の勤修となった。記念の歩みを拝見し、ご縁の長き年月を振り返る。「唯念仏」だと言われても易易と信じられず、なんでもという様々な問いが取り憑き離れなかつた。その過程で自身の本質を見抜かれ安住する地が念仏であることを教えて頂く歩みが今も続く。

釋尼雅亮